

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成21年 4月 第98号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

高齢者介護の魅力

映画『おくりびと』がアカデミー賞の外国語映画賞を受賞しました。遺体を処置して棺に納める所作を見つめる中で、死者を見送る家族が複雑な想いを整理していく様子を描き、言葉の壁を越えて世界中の人に感動を与えています。

高齢者介護の現場は、生きている人が死者となる過程に、日々の暮らしの中で最もリアルに出会い、その場に寄り添い、その最期を見届けます。そして、生きている人として最後の装いを施し、儀式の世界に引継ぎます。

人は古来、自然を恐れて崇拝し月や太陽に祈り、死を恐れて死後の世界に憧れ、死を強く意識して暮らす中で宗教や芸術、思想や哲学など、崇高な文化を創造してきました。

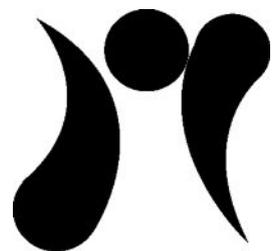
かつて何人もの高僧が、堂に籠もり、食を断ち、水も断ち、余分なものを捨て去りながら、一心不乱に仏に祈り、自らが生き仏になる修行を行いました。

要介護になったお年寄りは、自らが意図せずとも自然の摂理に添って老いていく中で、ごく自然に生き仏への途上に身を置いている姿に見えてきます。

それは、遺伝子では伝えられない大切な心の営みを伝える姿でもあり、その後、永遠の命となって大空を吹き渡り、雨にもなり、光にもなって、我々を見守ってくれるのです。

介護に携わる人は、要介護のお年寄りの暮らしに係わる中で、崇高な文化を創造する一翼を担っている事に感謝し、其処に居合わず幸せを喜び、多くの人にその喜びを伝えて欲しいと願います。

4月、新たに介護職として出発しようとする皆様を迎え、高齢者介護事業が、喜びと魅力に満ちた介護現場を創り出し、崇高な文化を創造する事業であり続けたい、と心より念じます。



せいりょう園 渋谷 哲



今回の仏教講話は加古川町備後にある浄土宗福林寺の下村和法ご住職に来て頂いた。定刻少し前にお見えになり、出迎えに出ようとしたら、「あー！」「あー？」。ご住職はなんと小生の中学時代の1年後輩の「下村君」であった。暫くの間お互いに超スピードで情報交換に努める。父親のこと、住職になられた経緯、私が「せいりょう園」でお世話になっている事等々。考えてみれば加古川市内には70を優に越えるお寺があるわけで、自分が見知っている方がご住職をされていることに不思議は無いのかもしれないが、煩惱だらけの、まさに煩惱が服を着て歩き回っているような小生にはそのことが全くの驚きであった。

講話の冒頭ご住職から一枚の文書が配られた。何と『煩惱即菩薩』

財は

心なきものを害えども

彼岸を求むる者を害わず

財の

むさぼりによりて

心なき人は

敵を傷つくるがごとく

おのれをばそこなう (法句經 三五五番)

註：

煩惱即菩薩という言葉があります。

人間として生きていく上で煩惱を去ることは出来ないものです。

しかし、その煩惱を深く見つめていく所に真実の生き方があるというのです。

心すべきことではないでしょうか。

配られた文書を簡単に説明された後、講話は本題に入っていく。

人間はどうやってこの世に生まれてきたのでしょうか？と問われる。人間がこの世に生を受ける確率は非常に低いもので、「お釈迦さまが右手にガンジスの砂を掴み、ゆっくり左手に砂をかける。砂が爪の先に僅かに残る確率くらい低い確率で人間界に生を受けることができる。」

又、人は父と母のご縁によって初めて生を受ける。影も形も無かったところから与えられた身体であるから我々はしっかりと守っていかなければならない。親は子供に名前をつけ一生懸命名前を呼ぶが、静寂の中に育った赤子は当然解らない。いつかそれが自分を呼んでいることだと気付く。人間の世界は音の世界であり、人間は習慣の動物である。先ずは父と母の縁で人は生を受けるがいろんなご縁を頂いて育てられていく。いじめられる縁、いじめる縁、師弟の縁、通学路での通りすがりの人との縁……。昔はガキ大将がいて弱い者をいじめっ子から守った。いじめっ子も心と体の痛みを経験し、両方の縁を持っていた。

中学生が時々お墓にやって来て墓地で遊んでいく。花も線香も持たず不審に感じる時もあったが、聞くと「おじいさんのお墓に来た。おばあちゃんのお墓に来た」と言って、暫く遊んでいく。片や立派な出で立ちで花と線香を持ってきて、あっという間に帰ってしまう大人もいる。心にゆとりがあれば少し時間をかけていくのであろうが、多分に心は既に次へ次へと飛んでしまっている。まさに心の問題であり自らご縁を絶とうとしてしまっている。

最後にご住職は「この年になりますと何事にもそんなに急がなくなりました。又、いつまで住職が務められるかなと思うことがあります。特に涅槃会の時期は考えさせられます。しかし浄土より浄土になるための種をもらってこの世に生まれてきた以上その使命を全うすべきだと思います。生きていて不必要な人はいない。人には必ず使命があり、使命を全うして始めて浄土に行けるのです。浄土宗的というと浄土(ふるさと)は必ずある。そのふるさとに帰っていく為に「御仏を信じ、環境に感謝し、南無阿弥陀仏を唱えるのです。」若干時間をオーバーされ、熱く語られた。有難うございました。

5月の仏教講話は第2月曜日、11日となります。

せいりょう園 4月の行事

4月 1日(水) 自彊術療法
音楽療法
お話グループ・福寿草の会

4月 4日(土) お花見

4月 6日(月) 仏教講話(浄土宗福林寺)

4月 7日(火) 誕生日会

4月 8日(水) 自彊術療法

4月10日(金) ひより手芸教室

4月11日(土) 園長との懇談

4月15日(水) 昼食会(サンドイッチ)
自彊術療法
音楽療法

4月20日(月) 美容の日

4月22日(水) 郷土料理の日(チャンポン風)
自彊術療法
お話グループ・福寿草の会
音楽療法

4月24日(金) 介護者の集い
～認知症サポーター
養成講座～
ひより手芸教室

4月27日(月) 理容の日

4月4日 お花見会



平成21年度事業計画書

社会福祉法人はりま福祉会
せいりょう園

基本理念

高齢者は、加齢に伴い様々な心身機能が徐々に低下し、医療ニーズが増えていきます。しかし医療を以ってしても根本的な解決には至らず、遠からず、そして例外なく、最期を迎えるという現実の中に身を置きます。高齢者に関与する医療・看護・介護は、この現実に向き合い、現実を受容した上で、夫々の役割を自覚し、連携してその最期に寄り添います。

社会を構成して生きる人の関係性の中で、長く生きた生命の完結と新しい生命の誕生は、表裏一体の相関関係にあり、高齢者には社会の一員として『長い人生を締め括る思想と覚悟』を、次世代の若者に示す責任があります。高齢者にとって死は、避けるべきリスクではなく、自ら準備を整えて迎えるべき、人生の締め括りです。介護の役割は、思想に寄り添い、準備を手伝い、覚悟を支え、最期を見届ける処にあり、介護職には高い専門性と深い思想性が求められます。それに応える不断の努力が問われます。そして役割を果たし終えた時、喜びや達成感とともに自らも成長する魅力ある職場であることを自覚して、介護事業を推進します。

平成21年度運営方針

4月より法人独自の第二種社会福祉事業『せいりょう園老人介護支援センター』が発足します。居宅介護支援事業と連携して、要介護になっても最期まで地域の一員として暮らす途を探り、一方で、特養やグループホームに入居しても、地域の一員として歩き回ることでできる街づくりを目指して、地域の人々への働きかけを工夫します。

全事業を通じて介護職は、要介護になった時の準備のお手伝いから最期を見届けるまで、地域社会の中で高齢者の暮らしに寄り添う、総合的・多機能的な生活支援者でありたいと願います。365日24時間を通して何時発生しても可笑しくない介護ニーズに適宜に対応する職業として、就業規則や給与規定も見直し、職業人としての結束力と社会への発信力を高める努力を続けます。

平成22年9月末で、創立満25年を迎えるに当たり、21年度～22年度の2年間に掛けて、事業所毎に夫々の業務に応じた『介護手順とその根拠』を機関紙に発表し、最後に『せいりょう園介護マニュアル』として整理します。

認知症サポーター養成講座を初め、認知症の人を支える様々な取組に工夫を加えて、一人の自立した社会人としてその最期を看取る介護に努めます。音楽療法や造形教室、自彊術療法等を応用して、認知症の人が自分の力で人生を締め括る過程に寄り添います。

- 1 指定介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)の運営
- 2 指定短期入所生活介護事業(ショートステイ)の運営
- 3 指定通所介護事業(デイサービスセンター)の運営
- 4 指定訪問介護事業(ホームヘルパーステーション)の運営
- 5 指定訪問看護事業の運営
- 6 指定居宅介護支援事業(介護相談室)の運営
- 7 指定認知症対応型共同生活介護事業(グループホーム)の運営
- 8 指定小規模多機能型居宅介護事業(輝きの家ながすな)の運営
- 9 軽費老人ホーム「ケアハウスせいりょう園」の運営
- 10 せいりょう園老人介護支援センターの運営
- 11 鍼灸マッサージ治療センターの運営
- 12 せいりょう園喫茶ルーム『ラヴィック』の運営
- 13 地域交流事業について

利用者の自立性を尊重し、地域社会への発信力を強め、法人事業への信頼感を高める為に、様々な取組を企画します。

- (1) のびのびルーム(入居者の自主サークル活動：月～木・13時～)
- (2) 共生の会(シニア世代の勉強会：毎月第一月曜日・18時30分～)
- (3) 介護者の集い(兼認知症サポーター養成講座：毎月第四金曜日・14時～)
- (4) 機関紙『せいりょう園』の発行(月刊)
- (5) 木野雅之ヴァイオリン・リサイタル(6月27日・土曜日)
- (6) ロンドンアンサンブル・コンサート(12月予定)
- (7) せいりょう園陶芸教室(指導：喜多千景、中本万里江、顧問：川西幹夫)
- (8) 仏教講話(加古川市仏教会ご住職持ち回り：毎月第一月曜日・15時～)

14 その他の事業の展開

(1) 富山で始まった多機能型デイサービスは、対象者は高齢者のみではなく、知的障害の子供から精神障害の人、認知症のお年寄りまで、多様な人々がお互いの役割を分担し合いながら共生する生活空間が、多くの共感を得ました。地域社会の目標の一つが其処に在り、当法人における介護事業全体の多機能化の試みも、目標は同じです。当面は特養1階ホールの利用に絡めて、知的障害や精神障害の人、学童保育年齢の子供たち等、認知症のお年寄りの側に多様な可能性が広がる生活空間を描きたいと考えます。

(2) 認知症ケアで今、スウェーデンから『タクティールケア』の技術が導入されています。日本のマッサージに似た技術で、認知症の人の安心ホルモンの分泌を促進すると言われていています。マッサージや自彊術を介護に応用できる拡がりを強く感じます。

今年度より、自彊術療法を認知症介護と職員研修に取入れ、毎週水曜日の15時から30分程度の時間、職員・ご家族・地域の人々とともに、認知症の人と過ごす時間を共有したい、と考えます。

介護者の集い

「うちだ歯科医院打田先生による口腔衛生」

社会福祉士 吉田 知一

3月の介護者の集いは、うちだ歯科医院の打田先生に来ていただき口腔衛生についてお話をさせていただきました。



まず、打田先生より入れ歯の噛み合わせの話をしていただきました。噛み合わせは人間の体に大きな影響を与えているようです。何かを飲み込む時、歯と歯が噛み合っていないと飲み込みにくいとのこと。ために自分のつばを噛み合っていないまま飲み込んでみると、上手く飲み込めません。さらに、スポーツ選手も自分の力を最大限に出す為にも噛み合わせは重要な役割を発揮し、オリンピック選手の多くも噛み合わせを研究しているそうです。

次に、歯科衛生士さんによる歯磨きの仕方の説明がありました。歯と歯茎の間の歯の根元には、少し隙間があいており、それを歯周ポケットといいます。そのポケットに歯垢や歯周菌が溜まり歯茎が炎症し、歯槽膿漏になっていきます。歯槽膿漏になった歯茎は悪い血が溜まり歯や歯茎に十分な栄養が行き渡らなくなり、歯茎は痩せ、歯と歯の間が開いていくのです。歯磨きする場合は、歯周ポケットの中に歯ブラシの先端を滑り込ませ細かく左右に磨くことがポイントだそうです。モデルになってくれる方をお願いして、歯科衛生士さんに歯磨きの実演をしていただきました。磨いていると歯茎から出血がありましたが、これは歯茎に悪い血が貯まっている証拠で、血が出ているからといって止めるのではなく、出来るだけ出したほうが良いとのことでした。私は、自分の歯をここまで丁寧に磨いたことはないですし、利用者に対する口腔衛生についてもここまで考えたことはなかったです。本当に勉強になりました。ありがとうございました。

来月の「介護者の集い」のお知らせ

せりょう園では毎月1回第4週の金曜日に「介護者の集い」を行っています。

平成21年度からは、介護者の集いの中で認知症サポーター養成講座も同時に開いていきたいと思ひます。この養成講座では、認知症という病気を通して、満足のいく自然な生活を過ごす為のヒントを共に学ぶことの出来る場にしていきたいと思ひます。

認知症サポーター養成講座とは、認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを養成する講座です。講座を修了すると、認知症を支援するサポーターの「目印」として、オレンジ色のブレスレット「オレンジリング」が渡されます。自治体が中心となって、このサポーターを全国で100万人養成し、認知症になっても安心して暮らすことの出来るまちづくりを目指しています。

この養成講座では、認知症という病気を通して、自分らしい生活とは何かを共に学んでいくことが出来ればと考えています。また、せいらょう園の介護者の集いでは、介護における様々な視点をサポーターに持っていただけるように、認知症という病気だけではなく、幅広い介護のお話が出来ればと考えています。特別養護老人ホーム等を申し込まれている方も是非参加していただきたいと思っています。実際に介護が必要な方、介護をされている方、地域の皆さんも気軽に参加してください。お待ちしております。

介護者の集い・認知症サポーター養成講座年間計画

- 4月 認知症とはどういう病気か？
徘徊している方を発見した場合、通報し保護することが目的なのか？本当の意味でのサポーターとは？事例を元に投げかけたいと思います。
- 5月 これからの介護保険の使い方
介護保険の基本的な利用方法を説明。皆さんが思っている介護保険とはどういったものなのか？介護保険の正しい使い方、サービスの正しい選び方などなど。
- 6月 利用者の外出について
- 7月 家族の役割、地域の役割
- 8月 介護保険の施設とはどういうものか
- 9月 看取りと緩和ケア
- 10月 入所申し込みから入所に至るまで
- 11月 感染症対策
- 12月 権利と責任について
- 1月 住み慣れた場所で最後まで過ごすには
- 2月 認知症と向き合う
- 3月 本当の意味のサポーターとは

注：テーマは変更になる場合があります

ケアハウス等空き情報 <平成21年 4月13日現在>

ケアハウス

- | | | | |
|------------|----------|----------|----------|
| ・恵泉 | : 若干 | ・せいらょう園 | : 1人部屋2室 |
| ・第二ケアハウス恵泉 | : 若干 | ・ウヰングはりま | : 2人部屋1室 |
| ・サリットひまわり園 | : 1人部屋2室 | ・アゼリア | : 1人部屋2室 |
| ・めぐみ苑 | : 1人部屋1室 | | : 2人部屋2室 |
| ・むれさき苑 | : 1人部屋1室 | ・青山苑 | : 1人部屋1室 |
| ・シスナブ御津 | : 1人部屋1室 | | : 2人部屋1室 |
| ・キャッシル真和 | : 1人部屋1室 | | |




1年を振り返って

介護士 松本 朋恵

1年前に専門学校を卒業し、右も左も分からない状態でせいりょう園に就職しました。入って間もない頃は先輩の後ろをついて行くのが精一杯でした。毎日が不安や緊張で一度聞いた事もすぐに忘れ、分からなくなっていました。でも先輩方から優しく教えてもらい、分からない事も割とすぐに解決したように思います。また同期で入った3人が身近にいる事で不安や緊張が取り除かれたと思います。

少し業務の流れが分かり、馴染めた頃に他の部署へ研修に行きました。特養（従来型）で学んできた事だけでなく、それぞれの部署の役割や違いを学ぶことができ、介護士としての幅が広がりました。でも約1ヶ月間他の部署へ行ったり、従来型で業務をしたりすると混乱し分からなくなることがありましたが、それも良い経験になったと思います。

7月から特養（ユニット）での勤務となり、また一からのスタートとなりましたが、一つひとつ丁寧に教えてもらえたので落ち着いて様々な業務を覚えていけました。9月からは夜勤に入りました。日中とは違う利用者の方々の一面や、職員が2人だけなのでいろいろと大変な面が多いと感じました。2月には死後の処置を行いました。ユニットでは常に先輩と一緒に業務を行うという事が少ない為、自分で決めて行うという事に自信がつき、責任感が備わったと思います。

長いようで短い1年間でしたが私の中では濃い1年を過ごすことができました。これからもいろんな事を学び、1年1年成長していきたいと思います。



せいりょう園待機者状況

<平成21年 3月24日現在>

